

拝復 新緑の候、青葉が目鮮やかな季節となってまいりましたが、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、平成21年4月17日付けで国土交通大臣金子宛に頂いた「血税を使い自然破壊した無駄な公共事業に対し強く抗議し責任を追及します」について、二風谷ダムに係わる記述に関しまして、下記の通り回答いたします。

今後とも、室蘭開発建設部が進める治水事業へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

記

頂いた文書中「100年推定の堆砂量の既に10年をまたずしてその2倍が堆砂するに及び治水能力が失われ」の堆砂については、既に説明しているとおり、沙流川流域で頻発した豪雨等による崩壊地の増加により、当初に想定した以上に流域の土砂が流出しているものと考えており、このため、平成15年8月の出水や社会情勢等の変化による治水計画及び利水計画の見直しを踏まえたダム基本計画の変更に合わせて、土砂流出等に関する近年の調査結果なども考慮にいれて、二風谷ダムの堆砂に関する計画も変更しております。

現状の堆砂量は計画内に収まっており、洪水調節に支障を与えるようなものではありません。

頂いた文書中「毎年堆積土砂掘削工事や運搬に数千万が費やされても堆砂量の増加の激しさに追いつけず」については、二風谷ダム貯水池内での土砂掘削工事は、平成15年8月の出水後の災害復旧工事として、平成16年度に掘削し貯水池周辺に置土した工事以外はありません。

また、運搬については、置土した土砂の一部を二風谷ダム下流の河川環境の向上のため、漁業関係者とも連携しながら、毎年春先の融雪出水で徐々に流下させる試験に活用をしているものです。

なお、二風谷ダムの堆砂量については、平成20年8月8日付回答書P9の通り、長期的には堆砂形状が安定に向かい、堆砂の進行が緩やかになることを計算で確認しています。

頂いた文書中、貯水池内の「水質の悪化と微細な泥土被害」については、平成20年2月12日付回答書p3及び同回答書別紙資料⑧の通り、二風谷ダム運用開始前後及びダム上下流で大きな水質の変化は認められません。

国土交通省でとりまとめた全国一級河川109水系の水質調査では、沙流川は近4年連続で全国1位となっており、二風谷ダム下流での水質も良好です。最近の調査結果は、室蘭開発建設部ホームページに掲載しています。

また、平成20年2月12日付回答書p2及び同回答書別紙資料③の通り、貯水池内堆積土砂の平均粒径によると粘土(0.005mm以下)は見られず、貯水池内のほとんどにおいて深さ方向にも面的にも砂(2~0.075mm)とシルト(0.075~0.005mm)が占めています。底質の分析結果によると、有機物含有量が多くて嫌気化しているものは確認していません。

頂いた文書中「洪水被害の増加」については、平成20年2月12日付回答書別紙資料①の通り、沙流川流域では近年豪雨が頻発しています。平成10年に完成した二風谷ダムにより、平成15年8月出水においては最大流入量約6,100m³/sを最大放流量約5,500m³/sに、平成18年8月出水においても最大流入量約3,370m³/sを最大放流量約2,830m³/sに低減させるなど、ダム下流の洪水被害を低減しています。

特に二風谷ダムの平成15年8月出水時における洪水調節効果については、土木学会の平成

15年台風10号北海道豪雨災害調査団の報告書においても、下流の災害防止に寄与したと報告されているところです。

これらの通り、二風谷ダムは治水効果を発揮しており、今後とも所定の効果を発揮するように適切に管理してまいります。

頂いた文書中「水産資源の減少」については、平成20年8月8日付回答書p7及び同回答書別紙資料Cの通り、代表的な水産資源であるシシャモの漁獲高は、二風谷ダム完成前後で大きな変化は見られません。

頂いた文書中「米の等級下落」については、整粒割合、水分含有率、被害粒、死米、着色粒、異種穀粒及び異物の混入率等の物理的性状により等級区分され、気象被害、虫害など複数の要因によって変動するものと承知しており、ダムによる当該地域の米の等級下落は把握しておりません。

頂いた文書中「地下水が枯渇」については、平成20年8月8日付回答書p27及び同回答書別紙資料p37の通りであり、近年20年間の富川地点における地下水位は、比較的安定しています。

敬具

平成21年6月12日

国土交通省 北海道開発局

室蘭開発建設部 治水課長

沙流川ダム建設事業所長

二風谷ダム管理所長